

かぎかっこのつかいかた



わたしはかぎかっこマン
おはなしのふぶんに「 」をつけてね

おはなししよう

ぐちゃぐちゃマンがいいました。

「かぎかっこマンのせいで、おはなしがわかりやすくなっている。」

ぐちゃぐちゃマンは、みんながじょうずにおはなしすることが
だいきらい。

「おはなしはだいじだもんね。ぐちゃぐちゃマンのすきなようには
させないぞ。」

ある日、二人はばったりあってしまいます。

「おっ、かぎかっこマン。まだがんばっているのか？」

「ぐちゃぐちゃマン、いやがらせをやめろ。」

二人はにらみあいました。

「きみは、おはなしがきれいなのか？」

すこしかなしいかおをするぐちゃぐちゃマン。

「そうだ。きらいだ。」

「なんできらいなんだ？」

ぐちゃぐちゃマンは、ずっと下を見ている。

「ぼくにだけでもはなしてくれないか？」

ずっとだまっていたぐちゃぐちゃマン。

「だって…、みんな、ぼくとたのしそうにおはなししてくれないから。」

ぐちゃぐちゃマンは、下をむいたままだ。

かぎかっこマンは、空をながめていた。

「きみがえがおではなせば、あいてもたのしそうにはなしてくれるよ。
ほら。」

かぎかっこマンは、わらって、ぐちゃぐちゃマンのかたをたたいた。

「たのしいだろ？」

「うん。」

みんながえがおでいれば、たのしさはつたわるはずです。

さあ、みんなえがおでおはなししよう。

□の部分はせりふととらえても良いですし、ト書きとして読んでも大丈夫です。せりふと考えた場合は、どちらのせりふになるか？その理由も聞いてあげてください。